

## 1. 日本の住宅

## 1. 日本の住宅

日本の住宅 中川 武

日本的住宅 中川 武

今東京には、伝統的な住宅や工業化住宅、そして高層集合住宅あるいは、建築家が設計した住宅など、実に多様な様式の住宅がある。

当今东京的住宅有传统住宅、工业化住宅、高层集中式住宅以及建筑家设计建造的住宅等、形式多种多样、数不胜数。

多様性ということだけに着目すれば、これは現代日本住宅が達成した注目すべき特質である。

单从日本住宅的多样性来看，这应该是当代日本住宅所具有的引人注目的特点。

一方、このような現象は伝統的な住宅の特質が崩壊し、混乱してきたとも言える。

从另一方面来看，可以说这种现象也破坏了传统住宅所具有的特性、引起了混乱。

そこで伝統的な特質と、現代の多様性をつなぎ合わせる問題が重要になる。

因此，明确传统的特性与现代的多样性的衔接问题，已成为当务之急。

現代の多様な住宅には、住み方、空間の性格などに注目すると、共通の4つの特質が窺える。

現代の多样性住宅，对其居住方式、空间特性等稍加留意，会发现它们具有以下四个共通特点。

1つ目は門構えからのアプローチ、玄関構え

第一、从进门开始的甬路、门厅。

2つ目は床形式の多様性

第二、地板形式的多样性

3つ目は和室に象徴されるように、建物の造り方と使い方が結びついた独特の空間システム

第三、象和室（日式房间）所具有的特征，建筑物的建造方式和使用方式相连接的独特空间系统。

4つ目は部屋の内部と外部が多様に、そして細やかに結びついた関係

第四、房间内部与外部设计形式多样，并且通过微细部的特殊处理、成为一体。

これらの4つの特質はいずれも伝統的なものでありながら、同時に現代の多様な住宅にも共通する性格である。

这四个特征，不但是传统的日式住宅具有的特征，同时，也是当代日本各式各样住宅的共同特征。

Chap. 2

塀で囲まれた門を入り、奥深い庭から玄関に導かれるという邸宅は今ではごく限られたものになってきた。

走进四周有围墙的大门，穿过幽深的庭园才能抵达房间门口的宅邸如今已很少见了。

しかしこの住宅へのアプローチと玄関構えが日本の住宅では重要視され、様々に工夫されてきた。

然而，通往住宅的小路以及正门的门厅在日本住宅中很受重视，人们在这些方面下了很多工夫。

玄関の格子戸にはいろいろな飾りをつけ、玄関サイドには植木鉢や草花などを用意して人々を暖かく迎えてくれる工夫をする。

正门上挂有很多饰品，其周围摆放着盆栽及花草等，使走进房间的人倍感亲切，心旷神怡。

東京 「新高輪プリンスホテル」 村野 藤吾

東京 “新高輪王子飯店” 村野藤吾

近代的なホテルの客室への入り口が、門や玄関構えを象徴したデザインとなっている例  
現代宾馆的客房入口，可以说具有象征着日本传统建筑的大门及门厅的设计范例。

これらの例は大きな敷地がない、あるいは西洋的な形式をとっていても、住宅の顔としての門や玄関構えを特に重要視してきたことを示している。

宸又袈箭脅頁壓短啞載寄秀廢喘仇，賜彭，軸聞頁寡喘廉剗摒秀廢，

这些范例都是在没有很大建筑用地，或着即使是采用西洋式建筑，作为住宅的门面，大门及门厅的设计也特别受到重视而被突出表现了出来。

多くの日本人が狭い敷地に無理をして門や玄関をつくる—これは日本人の住宅の理想像が門構えや玄関構えにルーツを持っているからである。

很多日本人在狭窄的建筑用地上也要勉强地建造出大门及门厅，这是因为在日本人的理想住宅里，大门和门厅是理所当然应该具有的。

東京郊外 青梅市 宮崎家

東京郊外 青梅市 宮崎家

日本の住宅ではどんなに西洋化や近代化が進んでも、玄関で下足を脱ぎ上履きに履き替えることや、裸足の生活が無くなるとは思えない。

日本的住宅不管怎样西洋化或现代化，在大门前脱鞋、换鞋，或者赤脚的生活习俗也不会消失的。

これには日本の特に夏の湿潤な気候や木造住宅を主体としてきたこととも関係する。

这与日本，特别是夏季潮湿的气候以及以木造住宅为主体有很大关系。

しかしやはり床形式の多様性を無視することはできない。

但是，地板的多样性也是不可忽视的。

奈良市 今西家

奈良市 今西家

1960年代頃まで全国どこにでも見られた農家や町家—

こうした様式住宅には土間と板床と畳敷きの部屋（座敷）という3つの床形式を持つのが特徴である。

到1960年前后为止，日本全国无论在哪里都可见到的农村住宅和城市住宅。

这些住宅的特点是都拥有土间、板床（木地板）和铺设榻榻米的房间（座敷）这三种地板形式。

土間は生産や商業などの場であるだけでなく、外の世界と住宅内部を結ぶ接点である。

土间不仅是生产和商业的场所，也是外面空间与室内空间的联接点。

板床は日本住宅の歴史の上で特殊な意味を持っている。

板床（木地板）在日本住宅史上具有特殊的意义。

南方系高床住居はやがて古代貴族の権威の象徴として表現され、清浄な場としての観念が伝統として生き残った。

晚云摺圭議互仇医廖娠，奚将頁硬旗酷怛幡璃瓦尤議悶<sup>⑬</sup>，

日本南方的高地板住宅，曾经是古代贵族权威象征的体现，而这种清静的场所的观念也作为传统被保留了下来。

同様に畳敷きの部屋も、単に日本人の体質にあった素材というだけではない。

同样，铺设榻榻米的房间，并不单纯是因为它是和日本人的体质相适合的素材。

武家住宅の様式を、名主の家や上流商家を経由して一般化した畳敷きの部屋は、当初は冠婚葬祭時のみ使用された。

晚云冷平廖娠議劔堀，将喇兆送岷社式貧蚊斌社議堀劔處延、遇處延攪葎匯違晒議繭繭致型寂，輝兜峪頁壓紗酵□堀、脂撰、壤撰式疾跌吉蒙步魁裁聞喘。

日本武士住宅の様式，经由名流之家及上层商家的式样演变，而演变成为一般化的榻榻米房间，当初只是在加冠仪式、婚礼、葬礼及祭祀等特殊场合使用。

このように日本住宅の床形式の多様性は、古代貴族の寝殿造りと、中・近世の武家の主殿造りや書院造りという各時代の支配階級の文化を継承しながら融合したものに由来している。

这种日本住宅的地板的多样性，是继承了古代贵族的宫殿神庙建筑、中近世纪武士的宫殿建筑以及书院建筑等各时代统治阶层的文化，相互融合渗透演变而来的。

日本人はこのような多様な床形式に柔軟、かつ繊細に対応し、豊かな住空間を造り上げてきた。

日本人利用这样多种柔软而细腻地板形式，建造出了形式丰富的居住空间。

和室は単に畳を敷いただけの部屋ではなく、近世の書院造りでは、武家の接客空間として様式化されたものである。

和室并不单纯是铺有榻榻米的房间，在近代的书院建筑中，作为武士接待客人用的会客室变化成为日式房间的一种形式。

「軸組-造作」の構造システムによって、座敷、次の間、縁などの複合的な空間構成や床の間、飾り棚などの座敷飾り、そして押入や各種の天井形式がつくられる。

通过“轴组-造作”构造系统，形成了客厅、休息室、走廊等的复合空间结构，装饰用壁龕等的客厅装饰，以及壁橱和各种吊顶形式。

座敷飾りの使い方や襖・障子などの自由な開放によって、内部から外部への連続的な開放空間が生まれる。

宥狍社障升蔑議聞喘圭隈、容性壇徳欠吉議徭喇卞強，侘攪阻貫坪何宥KK翌何議錢惚蝕慧議腎寂。

通过家俱装饰的使用方法，推拉门屏风等的自由移动，形成了从内部通向外部的连续开放的空间。

この連続した開放空間に、座布団や座卓を使用すると、さらに多様な用途に対応することができる。

つまり和室とは、使う人間に比重がかかるわけで、箸や風呂敷などと共通する日本文化の特質になっている。

这种连续性的开放空间，和座布団和矮桌子的使用的组合，进一步创造了多用途的空间。也就是说，和室（日式房间）因使用的人而异，与使用筷子和浴巾等习俗，共同构成了日本文化的特征。

横浜 三溪園

横浜 三溪園

現代では庭園といえるほどの広い庭を住宅は稀になった。

現代，拥有能称之为庭园的宽敞庭院的住宅已极为少见。

しかし日本の住宅には、現代でも庭園と室内の関係を通して形成された空間の特質が色濃く投影されている。

隼遇，晚云議廖妊，軸聞頁⑬旗、挽隼隱啣敵搾議宥狛優坩嚙片坪議購狼遇侘攪議腎寂蒙尤。

然而，日本の住宅，即使是現代，仍然保有浓厚的通过庭园与室内的关系而形成的空间特征。

一つの例として、超近代的なオフィスビルの中にあたかも自然のせせらぎのような川が流れている現代都市の新しい風景を見ることができる。

举一个例子来看，在超现代的办公楼中，能够看到宛如在大自然中潺潺流动的小溪，形成了现代城市的一种新风景。

「東京 胡蝶」 大江 宏

東京 胡蝶 大江宏

ビルの地下に実際の樹木を植え、露地を構えた茶室や料亭—

ここに、自然の風景や庭園を大地の連続性から切り離して内部化しようとする、寝殿造り以来の日本住宅の根強い伝統を見ることができる。

大楼的地下种植树木、建造出露天的茶室和日式餐厅—

这种将自然的风景和庭园从大地的连续性中分隔开，将其内部化的设计，

可以看到自宫殿神庙建筑以来的日本住宅具有的根深蒂固的传统。

内部でも外部でもない、曖昧な中間領域と複雑な建具形式、これこそ日本住宅の持ちうる懐の深いデザインといえることができる。

既不属于内部，也不属于外部的暧昧的中间领域，以及复杂的门窗形式，可以说正是日本住宅所具有的深奥的设计特征。

日本住宅の豊かな境界デザインは、さりげなさの中に奥深い秩序を持っていることである。

日本住宅丰富的设计境界，在不经意中拥有着深奥的秩序。

開口部や身近な景色に目を留めず、意識は自然に広大な外部の世界に広がっていくようにつくられた借景の技法。

不将目光仅停留在开口部位及身旁的景物上，使人的意识自然地扩展到广大的外部空间的手法称之为借景技法。

これは内部空間の心理的拡大だといえる。

可以说这种手法使内部的空间在心理上得到了扩大。

近接した庭園の景色を、半間ごとの開口部と広縁を通して全体像を心の中で想像しながら見る。

匣除議優坩尚弼, 宥狛磯繪議容性壇才錐繪議恠脆, 辛參聞繁断匯円<sub>せり</sub>No.彭屁悶尚弼匯円<sub>せり</sub>鉦浜。  
临近的庭园景色, 通过半敞的推拉门和宽敞的走廊, 可以使人们一边想象着整体景色一边观赏。  
これは限られたスペースをカバーするためのある種のフィルター効果ということができる。  
有限的空间通过这种过滤效果、得到了补充。

障子の巧みな使用によって、近接した狭い外部を親和化した舟入の技法。

通过巧妙的屏风的使用, 使人与近接的狭窄的外部空间相融和的舟入技法。

この技法は坪庭や雪見障子として受け継がれている。

这种技法是从狭窄的庭园和赏雪用的屏风上继承了下来。

日本の風土・文化の中で伝統的に形成され、日本人の生活思想の根底と深く結びあってきた様々な特質をはっきりと把握し、現代の都市的条件や生産技術の中で、これからの住宅文化を築いていかなければならない。

日本传统是在其风土文化中形成的, 明确地把握与日本人生活思想的根底, 密不可分的多样性特征, 在现代城市的条件及生产技术下, 今后需要建造这些住宅文化。

## 2. 地域文化財の考え方

## 2. 地区文物建筑之所见

地域文化財の考え方

地区文物建筑之所见

西川 幸治

西川幸治

歴史的景観や歴史的環境などの保存。

历史景观以及历史环境等的保存，

町や村には指定文化財ばかりでなく、地域住民にとって重要な意味を持つ地域文化財と呼ばれるものがあり、それぞれの地域でその地域文化財を積極的に生かす工夫が試みられている。

不仅有城镇或乡村所指定的文物，也有对于当地居民具有重要意义的所谓的地区文物。现在，日本的每个地区都在尝试着如何积极地发挥这些文物的作用。

また、保存度という考え方も起こってきている。

另外，保存度的观念也在逐渐地形成。

大津 膳所（ぜぜ）

大津膳所

保存度とは、歴史的環境がどの程度保存されているのかという尺度であり、歴史的環境の悪化を防ぎ、その回復を目指すものである。

所谓保存度，是一种衡量其历史环境在多大程度上被保存下来的尺度，防止其历史环境的恶化，并力图使其恢复原貌。

京都 祇園新橋

京都 祇園新橋

保存修景計画

保存修景规划

保存度という考え方は京都の祇園新橋や、産寧坂の街並みについて、その保存修景計画に当たって考えたものである。

保存度の观念是在京都的祇園新橋，以及产宁坂的街区布局等的保存修复规划的实施过程中形成的。

九州 臼杵地区

九州臼杵地区

たとえば、臼杵地区では保存度だけでなく、近代的な建物をも含めて、その建物が臼杵の歴史的景観を高めるために如何に貢献しているかを評価する尺度として、景観に対しての貢献度という考え方を導入している。

例如，对于臼杵地区来说，不仅用保存度的概念来衡量，还包括其近代建筑在内，对于如何提高历史景观价值所作出的贡献的评价尺度，还引进了对于景观的贡献度的概念。

新しい建物でも、街並みに融合したデザインとすることで貢献度が高まっていく。

即使是新的建筑物，通过与街区布局相融和的设计，其贡献度也会不断提高。

しかし、地域によってそれぞれ異なる文化的価値を画一的に評価できるものではなく、地域に応じた評価方法を作り出すことこそ重要である。

但是，不同的地区，其文化价值也各不相同，不可能用统一的标准来评价。因此，建立因地区而异的评价方法是非常重要的。

街並みや集落の景観、祭りなどもその地域の人々にとってかけがえのないものであるばかりでなく、他の地域から訪れる人々にも感銘を与え、憧れを抱かせるようなものとして保存し続けていきたいものだ。

街区的布局，以及村落的景观、庙会等，对于这一地区的人们来说，不仅是不可替代的，也会给来自其他地区的参观者以感铭，作为令人无限向往的东西，希望将其继续保存下去。

京都 伏見

京都 伏見

ここでは一つの企業が自分の遺産としてだけでなく、地域の景観保存に他に先んじて貢献をした例を見ることができる。

这里，我们可以看到，一个企业并不仅作为自己的遗产，对于地区景观的保存，也先于他人作出贡献的事例。

最初は個人のレベルで建物を保存することからはじめているが、それを一区域の輪に広げ、さらに地区レベルへ、さらに地方都市レベルへと拡大していくという形態をとっていることが注目される。

我们应该注意到其采用的保存形态，最初是从个人的角度开始保存建筑物，之后扩展至一个区域的范围，进而上升至地区的范围，最终扩展至城市的范围。

西川 幸治

西川幸治

文化財に「指定文化財」と「地域文化財」があるように、文化財の保存に対しても対応する2つの考え方があると思う。

就象文物有“指定文物”和“地区文物”一样，我认为对于文物的保存也相应有两种考虑方法。

たとえば、指定文化財である法隆寺のような歴史的な建造物を保存する場合には、解体調査等の調査を経て、創建当時の形に戻すという方法が採られる。

例如，在对于指定文物法隆寺这种历史性建筑物进行保存的时候，采用了经过对其各个部分的分解调查等之后，再设法使其恢复到创建当时的状态的方法。

静態保存

静态保存

私はそういう方法を「静態保存」と呼んでいる。後に改造された部分はずして創建当時の形に戻して保存するという考え方である。

我将这种手法称之为“静态保存”，也就是去除创建后经过改造的部分，使其恢复到建造当初的形态的保存方式。

動態保存

动态保存

もう一方で、街並みだとか、町家であるとか、またこの酒蔵のようなものは指定文化財に含まれるが、これらは建った当時の形も重要であるが、後に時代の変化に併せて改造を積み重ねて来たその過程を重視する考え方がある。

另一方面，对于街区的布局也好，城镇的古典建筑物也好，还包括象上述具有历史意义的造酒厂等的指定文物等，建造当时的形态固然重要，还存在着重视其随着时代变化而逐渐被改造的过程的考虑方法。

伝統的なものの中で、あまりよくないものを固定してしまいよいものを引き継ぎ、これからの時代の中で積極的に生かしていく保存の仕方を「動態保存」と呼んでいる。

传统的東西中，將其不太好的部分固定住，好的部分繼承下來，在今後的時代中積極地發揮其作用的保存方式，稱之為“動態保存”。

京都 嵯峨野・鳥居本

京都 嵯峨野・鳥居本

京都では古都保存法をはじめとして、街並みや景観に対して様々な指定があり、嵯峨野・鳥居本地区は古都保存法の指定地区であるほか、種々の指定を受ける地区になっている。

在京都，从古都保存法开始，对街区的布局及景观都有各种各样的指定，其中嵯峨野・鳥居本地区，不仅是古都保存法的指定地区，还是受到其他种种指定的地区。

街並みの保存、新しいまちづくりにあたっては静態保存の考え方だけを保存と考えない。

在新的城市规划中，街区布局的保存只采用静态保存的考虑方法，不能认为是真正的保存。

優れた伝統をこれからのまちづくりに積極的に活用していく、動態保存の考え方を取り入れていく必要がある。

將其優良的傳統在今後的城鎮建設中積極靈活地運用，即引進動態保存的考慮方式是很有必要的。

京都 三条通

京都 三条通

ここは鳥居本と異なり、伝統的保存ではなく、保存修景の整備を続けている地域である。

这个地区和鳥居本不同之處，在於不僅是對其傳統進行保存，還對其景觀進行持久的保存和修整。

京都文化博物館 旧日本銀行京都支店

京都文化博物館 旧日本銀行京都支店

辰野金吾設計の明治建築を静態保存した例である。

辰野金吾设计的明治建筑，是静态保存的一个范例。

京都 中京（なかぎょう）郵便局

京都 中京邮局

一方、文化財保存に関し、謙虚な姿勢を崩さずに、しかも積極的に動態保存の考え方を導入してケースがいくつかある。

另外，對於文物保存，以下列舉幾個在不失去謙虛的姿態的前提下，積極地引進動態保存方法的事例。

これはかつてルネッサンス様式で建築された建物だが、外壁を保存しながら、内部構成を一変させることで開発と保存の問題に込めている。

这是按照文艺复兴的式样而建造的建筑，保存外观的同时，将其内部构造焕然一新，对开发和保存的关系问题作出了解答。

周辺環境との調和に対する考慮がなされている動態保存の代表例である。

这是一个考虑到和周围环境相协调的动态保存的代表范例。

京都 日本生命京都支店

京都 日本生命京都支店

まちづくりとの調和という点で、過去のもをそのまま固定して保存する必要はなく、過去のもをどう活用すればよりすばらしい町になるかという視点に立つことが重要である。

从与城鎮建設相協調的觀點來看，沒有必要將過去的東西一成不變地保存下來，立足于如何靈活地

运用过去的东西，来建设更加漂亮的城市，这一视点非常重要。

新たな都市づくりのために過去を問い直す。

为了新的城市建设，需要将过去的东西进行筛选整理。

地域計画はその都市の歴史や文化を把握し個性を持った町や環境づくりに対して、きちんとした情報提供をしようとなる。

所谓地区规划，就是在掌握城市的历史、文化的基础上，对于创造拥有个性的城镇以及环境等，能够充分提供明确的信息。

東京駅

东京车站

現在開発の焦点になっている東京-

ここでは東京駅保存の署名運動や東京駅の写生会なども行われている。

现在成为开发焦点的东京 - 在这里举办了保存东京站的联名运动以及东京站的美术写生会等活动。

こういった我が町の環境保存を願う市民のエネルギーを開発のメッカといわれる東京にも見ることが出来る。

即使在被称为城市开发中心地的东京，也可以看到希望保存自己的城市环境的市民的力量。

伝統的な日本3大祭りの一つである京都の祇園祭-

先祖から受け継がれ、市民が大切に育んできた祭り。

传统的日本三大庙会之一的祇园庙会-

是市民们从祖先那里继承下来，并精心地培育起来的庙会。

市民主体の、文化の伝承にたいするすさまじいばかりのエネルギー。

这里可以看到以市民为主体，对于文化继承的巨大的力量。

地域文化財の保存はこうしたエネルギーに支えられている。

地域文物的保存正是依靠这种力量来支持的。

今私たちはこのエネルギーとそれぞれの地域に残された文化的遺産について、改めて考えてみる時期に来ている。

现在，对于这种力量以及各个地区残留下来的文化遗产，我们正面临着需要对其进行重新认识的时代的到来。

## 3. 京町家

## 3. 京町家

京町家

京町家

上田 篤 (Ueda Atsashi)

上田 篤

町家は、もともと農村社会とは非常に異なる部分を持っている。

町家其本身与农村社会相比具有很大的差异。

町家というのはもともとが商家であり、空間構成的に見ると、道路から奥に向かって4つのブロックに分けることが出来る。

町家原本由商家而来，从其空间构成来看，由道路延伸到内部、可分为四个组成部分。

すなわち、短冊状の敷地の短辺を街路に接し、奥に向かって長く、奥深く建てられた独立住宅形式のことを言う。

其狭窄的长方形基地的短边与街道相接，是一种内部进深很大的独立式住宅形式。

一般に内部の空間構成は、道路側から順番に、

一般其内部空间构成，从道路开始依次为：

店、中の間、座敷、前栽 (senzai)、小座敷、それに蔵 (kura)

商店、起居間、客厅、庭園、小客厅、最里面是储藏间。

などというように配置され、奥に行くに従って、プライベート性を重視したつくりになっている。

这样的配置，越往里面走，就越接近重视私人生活的空间。

第一の空間である「店」、つまりここは商売をする空間である。

首先第一个空间是商店，即商业活动的空间。

次が「中の間 (naka-no-ma)」で、食堂や台所、居間、寝室などの生活をする空間。

其次是起居间，这里面有餐厅、厨房、起居室、卧室等，是日常生活的空间。

神棚 (kamidana) はここにある。

神龕也设在这里。

このさらに奥は「座敷」。

再往里面是客厅。

ここに仏壇がおかれていて、冠婚葬祭のための祭祀の空間になっている。

客厅内设有佛坛、是加冠、婚礼、葬仪、祭祖等的祭祀空间。

座敷の奥には、前栽という庭があるが、座敷は常に前栽と一体になっていてその間に縁側がついている。

客厅再往里面有庭园，客厅通常与庭园浑为一体，其之间设有走廊。

通りから一番奥が第四の空間になっているが、ここは離れとか数寄屋 (sukiya) とか茶室などという、完全に個人の遊びの場としての小座敷である。

沿着甬路的最里面，是第四个空间，这里设有茶室等完全供个人娱乐的小客厅。

通り庭

过厅

通り庭は、細長い通路のような庭で、居住空間どうしの往来と接続を可能にしている。

过厅，如同一个拥有细长甬路的庭园，将居住空间连接起来，使其可以互相往来。

この通り庭は、当時の生活文化やコミュニティ形成にも寄与している重要な意味を持つものである。

这种过厅，对于当时的文化生活，以及地区社会的形成具有重要的意义。

京都 西陣 (NISHIJIN)

京都西陣

今も随所に当時の面影を残している京都、西陣の街並みー

即使现在，也随处能看到残留着当时痕迹的京都、西陣の街道布局ー

こういう町家の形式は、いわば伝統的な日本の生活様式に従ったものだとすることができ、この形式が今改めて見直されてきているのである。

这种町家的形式，可以说是遵循了传统的日本生活模式，这种形式现在正在被重新认识。

祭祀の空間ー

祭祀的空间ー

京都の町家は、その住人たちが冠婚葬祭を行うことで何代も同じところに住み、常民化していった。

京都の町家，居住的人们通过举办冠婚葬祭，代代都住在同一地方，近乎永久住民。

それがコミュニティをつくり、京都の町の風景をもつくれた。

通过这种方式建立了相互之间的交流，进而形成了京都小镇的风景。

町家の場合、内部、すなわち中の中に神棚を祭ってコミュニティの一員となり、さらに座敷という空間に仏壇をおき、祖先を祀ることで、「家」として認められ、存続していくための物質的、精神的保証をコミュニティから与えられたということになる。

町家，其内部的起居间供奉神龕，成为交相互交流的一部分，其次在客厅里还设置佛坛用于祖先的祭祀，被居住的人们公认为“家”，通过这种交流形式，得到了世代接续所必须的物质和精神上的保证。つまり、地域社会での家の独立という考え方である。

也就是说，在地区社会中，家是一个独立体的想法。

江戸中期以降の町家に見られる蔵屋敷をはじめとする数寄の空間ー

江戸中期以后的町家，可以看到以蔵屋敷为首的空间ー

こういったところに客を呼んで茶道具類や書画骨董を見せ合い、互いに楽しんだ。

在这种地方，将客人邀请过来，互相出示茶具、书画、古董等，观赏把玩，其乐融融。

これは、小さいながらもギャラリーであり、ここで歌舞音曲もやるならば、それはホールにもなった。

这里的空间虽然很小，但可作为陈列空间，而当在这里唱歌跳舞，欣赏乐曲的时候，也可以成为娱乐厅。

上田研究室・調査資料

上田研究室 調査資料

この赤く塗った部分はほぼ完全に保存されている状態を示している。

这些涂缸的部分，表示近乎被完全保存的状态。

ビルの建設によって美しい瓦屋根が減びていく中であって、かつての町家の機能と形態をとどめたまま、街並みに融合している姿を西陣地区に見ることができる。

随着高楼大厦的建设，漂亮的瓦屋顶正在逐渐消失的现在，在西陣地区、可以看到过去的町家的功

能和形态在被保留的状态下，与街道布局相融合的姿态。

この黄色、またはオレンジ色の部分は一部機能的に改修しながら、形態的には保存されているものである。

这些黄色或橙色的部分，表示其一部分功能经过改变，而形击被保留下来的町家。

この町家の場合、従来の店の間を改良して、ギャラリーとして活用している。

这里的町家，其原来商店的部分经过改造，被用作陈列空间。

動態保存の典型例といえる。

可以说是动态保存的典型事例。

こちらは、店の間を書店に改修した町家で、これもやはり動態保存の例である。

这是商店的房间被改造为书店的町家，也是动态保存的一例。

「宮原邸」高松 伸 (TAKAMATSU Shin) (1982 年)

“宮原邸”高松 伸 (1982)

これに対してデザイン的に再生している例として、町家の構成原理を生かしながら現代建築に応用している例もある。

与此相比，作为再生设计事例，还有充分和用町家的构成原理，设计现代建筑的应用事例。

短冊形の敷地の中に建てられた職・住兼用の建物。

这是在狭窄的长方形建筑用地上，建造的工作与居住兼用的建筑物。

内部空間は多様性を持たせるよう、スペースを最大限に生かした設計になっている。

为使内部空间具有多样性，采用了最大限度地利用其空间的设计手法。

挿入図面) 宮原邸 2 階平面図

插图) 宮原邸 2 层平面图

宮原邸 2 階平面図

宮原邸 2 层平面图

外部階段

外部楼梯

玄関

正門

事務室

办公室

湯沸室

热水間

ベランダ

涼台

「フロッグ ハウス」吉村 篤一 (YOSHIMURA Tokuichi) (1978 年)

块式住宅 吉村篤一

この住宅では、正面だけを重視する手法を取らず、円の一部を取り入れた片流れ屋根でスカイラインを特徴づけている。

这栋住宅，不采用只重视正面的手法，其屋顶采用了将圆的一部分包容进去，形成了冲天型轮廓的特征。

街並みに融合させ、全体を上方に展開させている。

与街道布局相融合，建筑的整体向上方展开。

挿入図面) フロッグハウス

插图) 块式住宅

西側立面

西側立面

南側立面

南側立面

一階平面

一层平面

「京都精華大学」 上田 篤 (1988 年)

京都精华大学 上田 笃 (1988 年)

町家の形状や空間形式を、大学の校舎に応用した例もある。

也有将町家的形状和空间形式，应用在大学的校舍中的事例。

京都精華大学がそれである。

京都精华大学就是这种情况。

日本の文化を育んできた町家や街並みが次々に新しい建築に取って代わっていく時にあって、今後町家はどんな展開を見せていくのだろうか。

在当今，曾经为日本的文化发展作出贡献的町家及其街道布局，逐渐被新的建筑所单代的时代，今后的町家将会以何种姿态出现在世人面前呢？

上田 篤

上田 笃

京都の歴史は1200年と言われているが、この町家も京都と同じくらいの寿命を持っている。

京都具有1200年的历史，町家几乎与京都拥有同样的年龄。

日本文化というものが生活文化であるということだ。

日本文化可以说是一种生活文化。

つまり、街の中の路地、町家の玄関の格子戸、暖炉、そして部屋の中の仏壇、家具、什器(ju-ki)などあらゆるものがデザインされ、それぞれの町家は舞台になっている。

也就是说，街道的路地，通过町家的格子窗、门帘、以及房间内部的佛坛，家久餐具等设计，使其成为一个的舞台。

日本人は茶道、華道、俳句などを、生活の中にとけ込ませて楽しむ。

日本人将茶道、插花、赋短诗等融于生活之中，使其充满乐趣。

町家の奥の小座敷ではそうした会合が昔から開かれている。

这样活动，从古时候开始，就在町家内部的小客厅里举办。

京都に来た外国人の建築家は町家を見て驚愕する。

来到京都的外国建筑家，看到了町家会感到非常惊讶。

彼らはその中に入り、まるでミュージアムのようなという。

他们走入其中，宛如进入了博物馆一样。

時には町家の残された街並みを見て、街全体がミュージアムだという。

当看到残留着町家的街道布局时，会感到街道的全体如同一个博物馆。

生活文化のミュージアム、これは日本文化の一大特色である。

生活文化的博物馆，这便是日本文化的一大特色。

そういうわけで町家を残していきたい。

正是因为这个理由，很多人希望能将町家这种建筑形式保留下去。

町家をどのように残していくのか、それは「鰻の寝床」といわれる短冊形の敷地を守ることが大事である。

町家应该以什么样的形态保留下去呢？保留其所谓的“鲤鱼的睡床”的狭长建筑用地的形态是非常重要的。

そうすることにより、生活文化の舞台が残るだろう。

这样的话，生活文化的舞台将会被保留下去吧。

例えばこのキャンパスもそうだが、町家風に間口が狭く、奥行きが長い建物になっている。

例如，这个校园就是这样，具有町家风格的狭窄的入口，内部走进去是狭长的建筑物。

8つの町家風の建物が、実は中で全部つながっている。

8栋具有町家风格的建筑物，事实上内部全部相互连接着。

僕は、町家の敷地を守って、中身をつなげても良いと考える。

我认为保持町家的建筑用地形态，即使将其内部相互连接起来也是可以的。

挿入図面)

断面線

剖面线

断面

剖面

それがヘンテコな、豆腐を切ったような普通のビルになってしまったのでは、生活文化の舞台としての町家の意味はなくなっていく。

如果变成象刀削豆腐块一样的普通建筑的形式，作为生活文化舞台的町家将会失去其意义。

これからの町家が残るべき方向として、このような建物を私はデザインした。

作为今后町家应该保留的方向，我设计出了这样的建筑。

みなさんもひとつ考えてみて欲しい。

也希望大家考虑一下这个问题。

## 4. 現代家相学

## 4. 現代家相学

現代家相学

現代家相学

清家 清 (Seike Kiyoshi)

清家 清 (Seike Kiyosh)

災難の降りかからない快適な住まいをつくるために、かつて「家相 (physiognomy)」という家づくりの指導書があった。

为了建造没有灾难而且舒适的居住空间，曾经出现了叫做《家相》的建造住宅的指导书。

その家相には、

这里所说的家相，是指

「玄関が表門の正面にあるのは凶」。

“门厅设置正门的正面为凶”。

「家の中央に宅主の居間を設けるのは吉」。

“一家之主的房间设置在中央为吉”。

「門口より一直線に寝室のあるは凶」。

“在与门口呈一直线上的卧室为凶”。

「台所を南西に置くのは凶」。

“厨房设置于南西为凶”。

「北向きの雪隠（トイレ）は凶」。

“厕所面向北面为凶”。

「家は南向きが吉」。

“家面向南为吉”。

このような言葉はどこに根拠があるのかわからないが、威厳と説得力があり、人々を納得させてきた。

这些说法的根据从何而来虽然不太清楚，但很具有威严和说服力，使人们接受下来了。

信じるか信じないかは別として、現在の私たちの住宅や家庭生活にも通じる重要な示唆を含むものがある。

相信与不相信暂且不提，它包含了当代住宅以及家庭生活中也相通的一些重要部分。

資料提供：清家清

资料提供：清家清

家相は古代中国に生まれた。

家相诞生于古代中国。

日本には奈良時代に伝来し、平城京や平安京の土地の選び方に、家相の思想が活かされたという。

奈良时代传到日本之后，据说在平城京以及平安京的土地选择上，就灵活运用了家相的思想。

「家相とは、ファミリーの生活全体のパフォーマンスを含めた相を言うのです。人相や手相と同じように、家相にもその人自身の生活のパフォーマンスが現れる。」

所谓家相，包括了家庭生活成员的整体表现的相。与人的面相和手相一样，家相也表现了居住者的生活方式。

清家先生は、自宅を設計される際に、家相の考え方に反することを試みた。

清家先生在设计自己的住宅时，尝试了一些与家相的思考方式相反的作法。

「階段を家の中央につくるのは凶」

“楼梯设置在家的中央为凶”。

家の真ん中を大切にするとする考え方が家相の根本にあるため、中央に階段を置くことを戒めたのである。

因为家相把家的中央部分看得很重要，所以尽量避免在中央部位设置楼梯。

しかし、東京のような過密都市においては、敷地や間取り、構造、設備など、家相に従って家をつくることは、物理的に不可能である。特にマンションのような同じ間取りを持つ家では、家相よりも、どのように住むかが家族にとってのテーマになってくる。

然而，在象东京这样人口过密的城市，地盘、房司的分割、结构、设备等、完全遵循家相来建造住宅，是不可能的。特别是象中高层集中式住宅，其房间分割均相同，采取什么样的生活方式，成为每个家庭的课题。

この家では少しでも広く使いたいという希望から、間仕切りを自由開閉式の扉にして、様々な状況に対応できるように変更した。

对于这一家来说，为了能够更宽敞地利用房间，采用了可以自由开闭式的门来做为房间的隔断，这样可以对应各种各样的变化和需要。

このように家は、住む人の住まい方によって、それぞれの顔がつくられ、価値が生まれてくるのである。

象这样的住宅，根据居住者的生活方式，创造出各种各样的形式，这样就可以产生了价值。

「鬼門に便所があるからダメというのではなくて、これは日当たりがよく風通しがいいから良い、とするのが科学であり、建築計画学です。」

“并不是说厕所向北不可以，而是说因为光照和通风好就可以，这是科学，也就是建筑规划学”。

吉田兼好の『徒然草』に「家のつくり方は夏を基準とするべきである。冬はどんなところにも住める」という文章がある。つまり、日本の家屋は夏涼しいことを主眼としてつくられていたようだ。

吉田兼好在《徒然草》的著作中这样叙述道，“建造房屋的方法应以夏季为标准，冬季在什么样的地方都可以居住。”也就是说，日本的住宅主要着眼于夏季的凉爽环境来建造的。

そのため、湿度の高い日本では、風通しをよくするために開口部を広くとるという工夫をした。

因此，在湿度很高的日本，为了通风良好，特意将开口部位建造得很宽。

これは、世界の住まいと比較しても類を見ない。

这种与世界的住宅形式相比，可以说是独一无二的。

また、戸や障子、ふすまなどを開放すれば、すべての部屋に風が行き渡り、住み心地のよい環境を思いのままにつくり出すことができる。しかし、開口部を広くすると、強い日差しが差し込み、時には雨も吹き込むので、軒や庇が必要となる。

此外，打开了门、格子窗、屏风等，整个房间会通风良好，可以自由自在地创造出令人心情舒畅的居住环境。然而开口部过大的话，强烈的日光会照进来，有时候甚至会进雨，所以在门窗上部设置挡雨遮阳棚很有必要。

家相にも「南に軒や庇があるのは吉」とある。

在家相中也有这样的说法“在房间的南部设置挡雨遮阳棚为吉”。

つまり、軒や庇は夏の強い日差しを遮り、さらに窓や出入り口から雨が直接吹き込むのを防ぐ役

目がある。

也就是，遮雨遮阳棚起着遮挡夏季强烈的日光，以及防止雨水从窗或入口直接进来的功能。

8月下旬・昼12時-強い日差しが軒で遮られているため、縁側の端に差し込んでいるだけである。

8月下旬・中午12点钟-由于遮阳篷挡住了强烈的日光，所以日光只能从侧面斜照进来。

午後4時-日が西の空にだいぶ傾き、縁側に部分的に差し込んでいるだけである。

下午4点钟-太阳倾斜至西面天空，日光只能从侧面边缘部分照进来。

夏至の日の正午、太陽の仰角はおおよそ78度。軒や庇があるため、太陽の日差しを遮り直接部屋に入らないようになっている。

在夏至的正午，太阳的仰角大约为78度。由于设有遮阳篷，太阳光被遮住，不能够直接照进房间。一方冬至の日の正午、太陽の仰角はおおよそ30度。日差しが部屋の中にまで差し込むようになっている。

与此相反，在冬至的正午，太阳的仰角大约为30度，遮阳篷又能够保证太阳光照进房间。

現代的な住まいを見ると、軒や庇がないため、日が直接部屋に入ってしまう。そのため戸や窓を閉めきり、クーラーなどで室内を快適な状態にせざるを得ない。

看一看现代的住宅，由于没有遮阳篷，太阳光直接照进了房间。所以只有将门和窗全部关闭，打开空调等才能够得到舒适的室内状态。

また、家相に「床が高い家は吉」とある。

另外，在家相中有“高地板的住宅为吉”的说法。

木造の家は床下の通風をよくして家の健康を保つ。

木制结构的住宅，地板下良好的通风，可以维持住宅的健康环境。

通風が悪いと、湿気のために腐ったり、シロアリがついて耐久性を損なうことになる。

通风状况不好，由于潮湿而腐烂，或者生虫，会影响住宅的耐久性。

さらに湿気が上って畳の傷みを早め、住む人の健康のためにも良くない。

进而，潮气上升，榻榻米会很快损坏，对居住者的健康也不利。

このように伝統的な住まいには、生活の経験から生まれた家づくりの知恵がある。まさに、永遠に生き続ける家相の教えである。

象这样的传统的住宅，汇集了从生活的经验而产生的住宅建造的智慧。正所谓永远流传下来的家相的教诲。

「私は、家というのが家族の相だと思うのです。だから家をつくるときに一番大事なのは、家族がそこでどのような生活をするかということ、それが大変重要なことだと思う」

我认为所谓家，是指“由家庭所有成员组成的整体的相，所以在建造住宅时，最重要的是家庭成员要在那里过什么样的生活。”

東京世田谷の住宅密集地に住むこの家では、現代的な家づくりの工夫が見られる。

在东京世田谷区的密集住宅区内的住宅，我们可以看到现代式住宅建造的一番工夫。

玄関に続く板の間を広く取り、外に面する側は全面ガラス張りにしている。

连接门厅的木地板房间设计的很宽敞，而且面向外侧的都是玻璃。

伝統的な住まいの特徴である、広い開口部と、軒や庇を現代風にアレンジして、明るく住み心地のよい家づくりがされている。また、開放的な空間を演出することで、家族同士の、そして訪れる人との心のコミュニケーションの場にもなっている。

具有传统的住宅的特征—宽阔的开口部，配备具有现代气息的遮阳篷，建造出了明亮的令人心情愉快的居住环境。而且，这种开放式的空间结构，为家庭成员以及来访的客人从心理上创造出了一个交流的氛围。

このように都市の限られたスペースや条件の下で、有効な間取りを考えるには、柔軟な発想と、家族の最適な住まい方が必要になる。

象这样在城市有限的空间和条件下，考虑到房间配置的合理化，有必要采用灵活的设想，使家庭成员能够拥有最合理的生活方式。

現代の家相に曰く、「家は、住む人の心が宿る」。

現代的家相学中这样写道，“所谓的家，是居住者心理的归宿”。

## 5. 木から教えられてつくる

## 5. 学习木材的材性来建造房屋

苗から木を育てる。

樹丛苗起

三十年

30年

六十年

60年

六十年から百年たって、やっと建築に使える素材としての木が誕生する。

经过60年到一百年，终于成材，可以作为建筑材料来使用了。

木を育てる。この長いサイクルから考えても、私達は木を使う時、大切に扱う心を忘れてはならない。

树木成长的周期很长，因此在使用木材时，要倍加珍惜。

## 【木から教えられてつくる】

学习木材的材性来建造房屋

室町時代末期のものと考えられている。現存する数少ない古い民家の一つ、千年家。

据说这是室町时代末年的建筑，是现存的为数不多的年代久远的古代民宅——千年家。

## 【箱木千年家】

箱木千年家

日本家屋の特徴は、柱と梁でできていることである。

和式住宅的特点就是用柱和梁来构建而成。

欧米の家屋が、壁で支えられているのに対して、日本の家は柱と梁が家を支えているのである。

欧美的住宅是靠墙来支撑的，而日本的住宅是靠柱和梁来支撑的。

吹き抜けの天井を支える柱や染・桁には、釘は使われていない。

支撑中庭的屋顶的柱、梁等，完全不使用钉子。

玉石の上に柱や床づかが乗り、大引きの上に根太が渡され、その上に床板が乗せられている。

圆石上的立柱和短木柱，通过棱木上的托梁，支撑起了上面的地板。

六百年近くさかのぼる当時、板は貴重品だった。

600多年以前，木板还是非常贵重的。

切りだした丸太を割り、手斧（ちょうな）で削る方法しかなかった。

将砍伐后的圆木锯断，只能靠木铳来切削加工。

柱は一間ごとに配置され、面が大きくとられている。

每一跨都要设置柱子，壁面做得比较大。

村の有力農家の家でありながら、室数の少ないのが時代の古さを感じさせるが、この古い民家からも当時の人達が木とふれ合い、木の性を考え、その用途に合わせて素材としての木を使い分けていた姿を見ることができる。

这是村里比较富有的家庭，即使是这样，房间的数量还是比较少，这多少可以感受到其年代的久远。

从这个古老的民宅也可以看出当时人与树木的密切联系，人们了解木材的不同材性，能因地制宜地使用木材。

建築の世界で、日本の民家は高い評価を受けているが、中でも日本の民家が到達した頂点と

もいべき一つの町屋の場合で、木とのふれ合いの例を見てみよう。

建筑界对日本的民宅有很高的评价，下面来看一个被誉为日本民宅顶点的实例，看看人与树木的密切关系。

### 【飛驒高山・吉島家】

飛驒高山 吉島家

この家が建てられたのは明治時代だが、実質は江戸の町屋の技術が集大成されている。江戸時代には、建て方にも使う木にも厳しい禁令があり、例え豪商でも、それは自由にはならなかった。这个民宅建于明治时代，实际上它是汇集江戸住宅的建造技术的集大成之作。江戸时代，住宅建造方法、使用木材等方面有严格的禁令，即使是富商也不能例外。

しかし明治になって禁令が解かれた後、思うさま木を使い、意匠をこらして建てられたのがこの家である。

但是，明治以后这个禁令就解除了，于是就有了这个完全可以根据需要来使用木材、别具匠心的建筑。土間から店になり店から建具で仕切られた部屋がつづく。

从无铺装的土面房间到店铺，从店铺开始，由门窗分隔的房间有序地延续着。

奥には数寄屋風の座敷がある。

最里边是茶室风格的客厅。

飛驒の見事な木を使って三層に組み上げられた小屋組み。

正是使用了飞驒的好木材，建起了3层的屋顶构架。

この木の色は春慶塗りである。素木を伝統とする日本の家では珍しいことだが、春慶塗りの産地である高山では、いろりのある土間の木に、漆の刷毛を洗った油を塗ることがおこなわれて来た。这个住宅的木材刷了春庆漆，在使用本色木材的传统日本民宅中，这也是很少见的。在春庆漆产地的高山，人们常用洗油漆刷子剩下来的油来刷地炉周围的木地板。

古い住宅の部屋の仕切りは建具だが、建具をはずせば一つの大きな広間になる。

古民宅是用门窗等来分隔房间的，拆掉这些门窗，就能成为一个比较大的空间。

木と共に生き、木の心に触れ、素材としての木を適材適所に使い分けることを知っていた飛驒の匠によってつくられたこの家には、構造と様式の統一、木に対する伝統的な愛着などが余すところなく表現され、木造建築の一つの頂点の姿を見ることができる。

飛驒的能工巧匠们，与树木共同成长，了解木材的材性，因地制宜地使用木材。所建成的这个民宅，实现了结构与形式的统一，充分表现出他们对木材的挚爱，是木结构建筑的登峰造极之作。

### 【国立能楽堂】

日本能乐堂

昭和五十八年八月、工期三年三ヶ月を経て完成した、耐震・耐火構造のこの能楽堂では、建物外部はアルミと鉄筋コンクリートで造られているが、人間に直接関わるものはすべて木で、構成されている。

经过3年零3个月的建设，日本能乐堂于昭和58年(1983嫩)8月竣工完成。采用了防震、耐火的结构，虽然建筑外表采用了铝合金和钢筋混凝土，但是与人直接相关的部分全部采用了木材。

人を大きく包み込む木の印象、それはどのように考えられ、どう展開されているのだろうか。

整个建筑有种人被木头完全包围起来的感觉，具体的构想、实现方法究竟是怎样的呢？

ここへ入って来ると、まず木が一番印象的なんです木の量っていうんですか、プロポーション

なんか見ますと、ちょっと背が広間の方がもっと背が高いですけど。

进入室内，第一印象就是使用木材的使用量大，从比率来看，大厅的屋顶比较高。

それに対して木の印象のために、割り合いたくさん、例えばモヤ、ヒサシっていう感じでいきますと、向こうが角柱かなと思うと、やはり丸柱を使われている、ある程度、ここに入ってきた時に木があるっていう……

对于木材的印象，使用的地方很多，就拿挑檐梁、遮阳来说，想象中应该用四方角柱来支撑，一看之下居然用的是圆柱。在某种意义上来说，一走进这里就满是木材的感觉。

一つの予告というか、ブローグっていうか、そういう気持を……

也可以说是一种预告的意思、即所谓的前序，会有这样的感觉。

それから、庭が大変素晴らしい。

还有就是庭院非常出色。

こちら、正面から入って乗ると、庭が素通しにして、その手前にこの丸柱がこう立っているっていう…

从正面进去，整个庭院一目了然，首先映入眼帘的是这个圆立柱。

あの庭も、あまり庭らしい庭じゃなくて……

那个庭院也没什么庭院固有的风格……

武蔵野の気風をね……

有点武蔵野的风格。

こうして、木との触れ合いを何段階もの空間的なアプローチで深めつつ、やがて能舞台への屏が開かれる。

就这样，经过几个阶段空间上用木材的巧妙诱导，通向能乐舞台的屏风终于展现在我们眼前。

建物の器の中に入っている能舞台ということで、何か特にご苦労されたことは？

设置在建筑物中的能舞台，最难处理的是什么呢？

それは、ボリュームですね。これをそのまま外に建てたとしたら、ものすごく軽くて華奢で薄い感じですね。

应该是体量的问题。这个舞台要是建在室外，就会觉得非常的轻盈和奢华，有点单薄感。

ところが外に立っているようなものは、どんなに華奢だと思っても、ここへ建てたら非常にそぐわない、この空間には武骨なものになってしまう。

但是，建在室外的建筑，不管有多么奢华，放到这里的话，就非常不协调，这个空间就不风雅了。

ここが建物に囲まれた、密度の高い空間だっていうことなんですね。

这个空间被建筑物包围着、空间的密度大。

ここが白州である場合とそうでない場合とではまた違いますからね。

当然是白砂地或不是时，其处理方法也是不同的。

その辺のブローションのとり方っていうのは原寸でないとね、一般図ではもうそこまでのデリケートな感覚は現わせませんからね。

这些部分在比列上的处理方法，只有在实物尺寸的图上，才能表现出那种高雅感，而在一般图纸上没法表现。

どうしても原寸場で、原寸でもってその辺をやらないと図面で追えるところは図面で追っていきますけどね、二十分の一、せいぜい十分の一ぐらいまでですね。

当然，如果不用实物尺寸来做的话，普通图纸所能表现的，也就 1/20、最多也就是 1/10 的东西。それから先は原寸でいくより仕方ありませんね。

这和前面的实物尺寸图相比，也是没有办法的办法。

### 【瑞聖寺修復工事原寸場】

瑞圣寺修复工程的实物尺寸部件制作场

この原寸場では実測に沿って修正を加えながら墨つけを行なっている。

这个制作场是根据实测结果进行修正，在木材上弹出墨线

大工が軽子を打ち、棟梁が墨壺を持って、壺糸で墨をつける。

技术工人定好勾板的位置，师傅拿着墨斗，在木材上打线。

壺糸で引かれた墨の上に棲準尺を置き、壺差しで棟梁が印をつけて行く。

在打好的墨线上用曲尺丈量，用划尺标上加工位置的记号。

一本のしない棒から破風の曲線が、棟梁の経験と長年培われた感覚でつくり出される。

凭着多年的经验，师傅们可以用墨线弹出从直线到山墙顶部曲线等各种形状的构件。

棟梁の手が、かんなに伝わる微妙な変化を感じ取り、修正を加える。

师傅们根据手中刨子传来的微妙变化，来修正部材。

組物の墨つけ

组合件的打线

差しがねと墨差しで線を引く。

用矩尺和划尺来划线。

原寸場では、材の性格を見極め、木の性を生かすための作業が続く。

实物现场，必须充分了解木材，发挥木材的特性，进行作业。

能楽堂には色づけはない。

能乐堂并不着色。

全くの素木である

全部使用的是本色木料。

### 【素木】

本色木材

これは、木を単純に素材としてのみ使って来た中国や欧米の人々にはなかなか理解し難いことだろう。

这对于把木材仅仅作为建筑的构造材料，而不把木材作为装饰材料的中国和欧美的人们来说，可能是难以理解的。

素木を使うという手法は、伝統的に木を大切な素材として使って来た日本人独特の感覚によるものだからである。

使用本色木材的这种手法，是因为日本人对木材独特理解，有着珍惜使用木材的传统。

木心

木材的材性

木の家をつくり続けて来た人々は、その木の心を見抜き、木の性質を知ることによって、それが教えてくれる方向に従って作業を進めてゆく。

一直从事建造木式住宅的人们，洞彻木材的材性，并根据材性来进行作业。

普通の大造家屋では、日本の大工は平面図を見るだけで、家を組み立てることができる。

一般的木结构住宅，日本の木匠只要看平面图，就能把住宅建起来。

### 【仕口】

榫

仕口や継手のつくり方にはいろいろあるが、大工はそれを巧みに使い分ける。

榫和接头的制作方法有很多，木匠能够巧妙的灵活运用。

### 【継手】

接头

珍しくもないこうした風景の中にも、木と関わり合ってきた人々の、木との親しみ姿を見ることができる。

这种情形并不算少见，从而也可以看出长年与木材打交道的人所表现出来的与木材的亲密关系。

しかし、その一方で工業化をひたすら追い求めている現在、木との親近感が薄れつつあるのも事実である。

但是，由于一味地追求工业化，与木材的亲切感在不断减少，这也是事实。

かつて私達は建築だけではなしに、様々な木の道具に囲まれて生活していた。

过去，与我们的生活密切相关的不仅有木造住宅，还有许多的木制物品。

木の魅力

木材的魅力

それは、肌触りのよさ、住み心地のよさである。

那就是手感好、居住起来感觉舒适。

木は呼吸している。この呼吸が肌触りのよさや住み心地の良さを生み出す。

木材一直在呼吸着，从这种呼吸中营造出手感好、居住舒畅的生活氛围。

木は生きている。

木材是活着的。

生きている木のぬくもりを大切に、謙虚に木の心に学びつつ、木から教えられてつくることが今の私達に必要なことではないだろうか。

珍惜树木，谦虚不断地学习木材的材性，建造新建筑，这对于今天的我们来说非常必要。

## 6. 宮大工西岡常一の世界

## 6. 寺庙建筑家西冈常一的世界

宮大工西岡常一の世界

寺庙建筑家西冈常一的世界

西岡常一

西岡常一

奈良・薬師寺の白鳳時代の伽藍（がらん：temple building）を現代に再現する—この壮大な試みはどのような手法と手順で行われたか？

再现奈良・药师寺的白凤时代的寺庙建筑—这样伟大的尝试是以怎样的方法和顺序进行的呢？

まず、地中に埋もれている遺構を発掘調査し、創建当時の伽藍配置を把握します。

首先，通过挖掘调查埋藏在地下的遗址，把握创建当时的寺庙建筑的配置。

次は建物の高さや意匠を決めます。

其次，决定建筑物的高度及设计构思。

これは古い文書を調べるとともに、創建当時の建物である東塔を調査し、そのデータを基に決めていき、基本設計図を起こします。

通过调查过去的文献资料，以及同时期建筑物的东塔，以这些数据作为基础，来完成基本设计图的设计。

それが伽藍復興委員会で検討、承認された後、実施設計図に取りかかる—というのが、大まかな手順です。

基本设计经过寺庙建筑复兴委员会的讨论承认后，再进行施工图的设计。这是大致的顺序。

**【薬師寺伽藍配置の基準が東塔の高さにあることの発見】**

药师寺的建筑设置标准是以东塔的高度为基准的发现，

東の塔と西の塔の高さを半径にして円を4つ描く。その中に回廊（cloister）と金堂（こんどう：仏殿の意）が入るように設計されています。そのようなことを調べ、そしてそれに合わせて設計をしていきます。

參叫滿才廉滿議互業葎磯抄鮫4倅岱，風嶺譜柴嗤指脆才儉去。祥頁宸劔序佩距臥，旺梓孚風潤惚栖序佩譜柴議。

以东塔和西塔的高度为半径画4个圆，其中设计有回廊和佛殿。就是这样进行调查并按照其结果来进行设计的。

**【西岡棟梁の基本設計ノート】**

西岡木匠祖师的基本设计笔记

**【斗木共（柱上にあり、軒や内部の天井などを支える構造体）】**

斗拱（在柱子上部，支撑屋顶的构件）

西塔は三手先（みてさき）という形式を使っています。

西塔运用了被称谓“三手先”的结构形式。

**【大斗（だいと）、肘木（ひじき）】**

大斗、肘木

三手先とは、大斗から肘木がでてその上に斗（ます）が一つ乗る。そのまた上に肘木がでてまた斗が乗り、3つめの斗で軒桁を支えている形式です。

所谓的“三手先”，是肘木从大斗伸出来，在其上面又设置一个斗。在这层结构上面，又有肘木伸出，

其上又设置斗，第3层的斗支撑屋顶横梁的结构形式。

ところがここのは旧式の三手先で、軒桁を支えるために非常に長く斗が出ていて、特徴的である。然而，这是旧式的“三手先”，其特征是为了支撑屋顶横梁而将特别长的斗露在外面。

#### 【法隆寺金堂】

法隆寺佛殿

#### 【薬師寺金堂】

药师寺佛殿

薬師寺は軽妙でしかも優雅である。また、地震の時は外側だけが揺れて、心柱が揺れない。

药师寺的结构轻快而优雅。而且，地震的时候只有外侧晃动，中央的柱子是不会晃动的。

外側は、初重が右に傾くと、二重が反対に傾き、今度は三重がその反対に傾く、というように互い違いになります。

外側每一层构件的运动都互不相同。第一层向右倾斜时，第二层就会向相反的方向倾斜，而第三层又会向与第二层相反的方向倾斜。

心柱

心柱

心柱がいつも動かない。これは柔構造であるといわれます。

心柱从来都不会晃动，这种结构被称之为软结构。

1300年前にすでに柔構造ができていた、これは昔の人の素晴らしい考えだと思います。

早在1300年前就已经出现的软结构，可以说是前人的巧妙构思。

塔の屋根より上だと、金堂が高すぎてしまい、両塔を抜いてしまう。三重の軒と金堂の棟とが並ぶように設計されています。

佛殿如果高于塔顶的话，就会显得过高，凌驾于东西两塔。因此三层的塔顶与佛殿的屋顶并列着设计而成。

昭和51年に再建された金堂は西岡棟梁苦心の作でした。

昭和51年重新修建的佛殿，是木匠祖师西冈的心血之作。

続いて56年に西塔が復興された。

接下来，昭和56年复原了西塔。

59年には中門が再建された。

昭和59年重新修建正门。

薬師寺復興工事は平成3年の玄奘三蔵院建設から回廊建設へと続けられていくのです。

药师寺复兴工程，从平成3年的玄奘三藏院建设开始，到回廊建设，一直延续下来。

基壇 (podium)

基壇

基壇の幅は発掘でだいたいわかります。その外側に雨を落とすことを考慮すると、屋根の長さが決まる。

基壇の宽度通过挖掘基本上搞清楚了，它的外侧考虑到排雨水的问题，决定了屋顶的长度。

「堂塔の建立には木を買わずに山を買え」

“建筑佛殿和塔，买山不买树”

宮大工の伝統で言われる言葉です。これは伐採された後ではよく木がわからないからです。

这是寺庙建筑师的传统俗语。因为被采伐之后，就不能很清楚地辨识木材特性的缘故。

山の土質によって木の材質が決まるし、それから山の環境によって木の癖が生まれる。

山林的土质决定了木材的材质，木材的纹理是由于山林的环境而形成的。

例えば、木の南に大きな枝が出ていると、そこに風が当たって、いつも西にねじられる。ところが木はまっすぐに育つ性質があるから、それに対抗して育っていく、そうして木の癖が生まれる。

例如，树的南侧如果生出了大树枝，由于受到风吹的影响总是向西拧着。但是，树又有垂直生长的性质，象这样对抗着成长起来，就会生出纹理。

だから、環境とは風向きを知ると言うことです。

因此说，所谓环境就是要知道风向。

そういうことを把握し、桁に向いている木、柱に向いている木、というように、それぞれ生きたままで見当をつけて伐採してもらう。

嫺燐阻宸又械紛，祥辛參蚩掩癖栽喘噐蛄訳議直可，癖栽喘噐庠徨議直可，壓万断珊伏海議扮昨孀欺旺寡響。

掌握了这些常识，就可以分辨适合用于檩条的木材，适合用于柱子的木材，在它们还生长的时就找到它，并采伐下来。

「木は生育の時の方位のままに使い」

“应该将木材用于与其生长时相同的方位上”

これは、例えば山の南側に生えた木は、御堂の南側に持ってくるということです。

也就是说，例如，生长在山的南侧的木材，应放置于佛殿的南侧。

北側に生えた木はお堂の北側に、ということです。

生长在北侧的木材，应放置于佛殿的北侧。

長年、太陽で訓練された木は、お堂の南側に持っていく、太陽によくあたるところに持ってこなければいけない。

在太阳下得到长年锤炼的木材，就必须放在南侧经常晒到太阳的地方。

このことは古代の建築－飛鳥・白鳳・天平時代くらいまではよく守られています。だから飛鳥時代の建築は解体することなく1300年くらいの寿命があると私は思う。それは自然の生えたままの方位で木を使ってやるからです。

这些常识到飞鸟・白凤・天平时代的古建筑为止被很好地保留着。我想就是因为这样，飞鸟时代地建筑才会有1300年的寿命而不解体，这是因为木材被用在与其自然生长时相同的方位上。

#### 【蛙股（かえるまた）のつくり出し】

蛙股的制造方法

まず木があり、そして、木の癖や加工する部材の形に合わせて道具がつくられます。

首先要有木材，然后根据木材的纹理以及要加工的部件的形状来制造出工具。

そしてその上に技術がある－と西岡棟梁は考えています。

接下来的就是技术－这是祖师西冈的思考方法。

木の癖を活かすために、手仕事の道具が使われるのです。

为了能灵活利用木材的纹理，就要使用手工工具。

工人は、宮大工の仕事とは木の癖を知り、それを組み合わせて堂や塔をつくり上げていくことにある、という西岡棟梁の考え方を身につけていくのです。

木匠们掌握了祖师西冈的这些思考方法，即木匠的工作就是知道木材的纹理，然后通过合理的组合来建造佛殿或塔。

ヨキによる桁のつくり出し

利用叫做“yaoki（斧子）”的工具制造檩条的方法

今ヨキという道具で削っているのは桁にする木です。道具を使うときには、それが物ではなく自分の肉体の先端だと考えて、自分の魂を木に打ち込むというつもりで力入れて魂をこめないといけません。

现在用叫做“yaoki（斧子）”的工具在切削的是制造檩条的木材。在使用的时候，不能把它当做是一件工具，而是自己身体的一部分，要将自己全身心都灌注于木材上。

ヤリガンナによる仕上げ

利用“yaliganna(削刀)”工具

これはヤリガンナという道具です。ヤリガンナで削ると木の色が変わる。本当によく切れる物でないと削れません。

这就是叫做“yaliganna(削刀)”的工具，利用该工具来切削，木材的颜色就会改变，如果不是很锋利的话是削不动的。

今は、ヤリガンナにする鋼もなかなかいいものがないです。

至今，能够用于该工具的好钢材已经很难找了。

ヤリガンナは正倉院の模型を見本に復元された

这件“yaliganna(削刀)”是根据正苍院的模型复制出来的。

粽（ちまき）の削りだし

粽（柱头）的切削方法

上部の粽といわれる曲線を作っていきます。

先制作上部的粽（柱头）的曲线。

これは頭貫（かしらぬき）の仕口をつくっているところです。

这是正在制造粽（柱头）的接口。

道具を使いこなす-それは技術であるとともに、木を知り尽くすことでもあります。

正确地使用工具 - 不但需要掌握技术，而且要非常了解木材的特性。

【「木の癖を組み合わせることは工人等の心を組み合わせること」】

“木材的纹理的组合，也就是木匠们的心思的组合”

これはみんなの気持ちが揃っているかということの意味する。

这就意味着大家的心思必须一致。

工人らは、無言のままでどんどん仕事が進んでいきます。

木匠们在无言中迅速地开展工作。

これはちゃんと心が組めていると言うことです。

这说明了他们的心思组合得很好。

「百人の工人がいれば百つの心があり、これを一つにするのが匠長の才能である」

“一百个木匠有一百个心思，把这些心思统一成一个，这是木匠工长的才能”

工人が13人いますが、一人一人が自分自身で仕事をきめて分業しているから、作業がうまくいく。

因为这 13 个木匠每个人的工作都由自己决定，然后分工合作，所以干得非常出色，

柱と連子（れんじ）が組み込まれた後、頭貫が通されます。頭貫が通されることで、柱同士が連結され、お互いに線としてつながっていくことになります。

柱子和连子组合起来之后，再将柱头连接起来。通过柱头的连接使得相互之间成为一条线。

次に梁から桁までの組み物を見ていきましょう。

接下来，让我们来看一下从梁到檩条的衔接方法。

肘木

肘木

蛙股の上の大斗に肘木が乗るところです。

这是正在将肘木放在蛙股上面的大斗里。

斗（ます）

斗

回廊の虹梁（こうりょう）の上に斗が5つ乗り、その上に桁が十文字に乗っていきます。

回廊的虹梁上放 5 个斗，然后再在上面放上呈十字型结构的檩条。

木造建築は部材を組み合わせ、つないでいくという考え方で成り立っています。したがって組み物や継ぎ手は、柔構造建築物の骨格であるのと同時に、関節部でもあります。

木造建筑是将部件连接组合而建造起来，因此，用于组合的部件以及接合的部件，不但是软构造建筑物的框架，也是其关节部分。

しかも素材である木には一つ一つ癖があるという特徴があります。

而且作为材料的木材，又各自拥有其特有的纹理。

ここでは木の癖なりに木ごしらえを担当した大工さんが、見立てた通りに木の癖を活かすよう、部材の組上げまで責任を持つという現場システムになっています。

在这里，是一种现场加工系统。即由担任木材加工的木匠，根据经验灵活运用木材的纹理特性，一直负责到部件的组合完成。

そのことが構造全体に木の癖を活かすことにつながるというのが、西岡棟梁の信念なのです。

这样就可以保证在整个结构体中充分发挥木材的纹理特性，这是西冈祖师的信念。

出隅・入り隅（corner）が仮止めされた後、中門に向かって棟桁が通されていきます。

外側和内側被暂时固定下来后，面向中门设置屋顶梁。

棟桁の継ぎ手の鎌継ぎです。

这是屋顶梁的接合部位 - 鎌接合。

回廊の妻は、中門とつながります。

回廊的内面与中门连接。

ここに破風（bargeboard）が納められます。

在这里设置叫做“破风”的装饰板。

棟桁から軒桁にかけて、地垂木（じだるき :exposed rafter）が通されていきます。

从栋檩到轩檩，地垂木贯通其中。

地垂木は一本一本和釘で桁に固定します。

地垂木用一根一根的日式钉与檩固定在一起。

地垂木の据え付けが終わりました。

地垂木的设置到此结束。

この頂部に野棟（のむね）が乗ります。

在这上面设置野栋。

平成4年春、回廊第一期工事はほぼ終わろうとしています。木ごしらえから考えるとおよそ5年という年月が経っていました。

平成4年の春天，回廊的第一期工程基本上结束。从最初木材的准备算起大概经过了5年的岁月。風雪に耐えて立つ、その姿こそ、建築の本来の姿である。だから建物には一千年以上の命を与えねばならない - それが西岡棟梁の建築に対する考え方であり、信念なのです。

建築物本来面目就是应该能够久经风雪。因此，建筑物一定要有千年以上的寿命 - 这是西冈祖师对建筑的思考方式及信念。

何事をするにも魂を込めてやれ。

不管你做什么事，一定要全身心地投入去做。

研ぎもの一つにも自分の魂が道具の先を伝って外に出ていく。

甚至在削磨工作的每一个动作之中，自身的意念都要通过工具的末端传送出去。

そうして磨きあげられた道具でもって木に打ち込めば自分の魂を木に打ち込める。

就是这样通过研磨的工具将自己的意念注入木材之中。

「堂塔の用材は木を買わずに山を買え」

“用于建造佛堂与塔的材料，不买树，要买山”

「木は生育の時の方位のままに使え」

“木材应使用与其生长时相同的方位上”

「堂塔の木を組み合わせることは木の癖を組み合わせること。木の癖を組み合わせることは工人等の心を組み合わせること」

“佛堂及塔的木材的组合也就是木材纹理的组合。木材的纹理的组合，也就是木匠们的心思的组合”。

「百人の工人がいれば百つの心があり、これを一つにするのが匠長の才能である」

一百个木匠有一百个心思，把这些心思统一成一个，这是木匠工长的才能”

これらは西岡建築の根幹にある考え方なのです。

这是西冈祖师流建筑的最基本的思考方式。

## 7. 戸建て住宅の構法

## 7. 独立住宅的構法

明治大学理工学部教授 内田祥哉 (uchida yoshichika)

明治大学理工学部教授 内田祥哉

今回の「構法」というのは建築の構成方法という意味です。どのような道具－屋根、床や壁とか、断熱や遮音、雨仕舞（防水という意味です）に関係するすべての材料－を使い、どのように家を組み立てるかという組み立て方のことを言います。

在这里所说的“构法”是指建筑的构成方法。也就是说，屋顶、地板、墙壁等采用什么样的材料来隔热、隔音、防水，怎样来组合建造房屋的方法叫做“构法”。

これは、江戸時代17世紀後半に建てられた山梨県の農家である。垂直材である柱と、水平材である梁とが巧みに組み合わされている。

この柱と梁を基本にした軸組式の構法が日本の木造建築の特徴である。

这是江户时代17世纪后半期建造的、位于日本山梨县的农家住宅。垂直的柱子与水平梁巧妙地组合而成，这种梁与柱子为基本的轴组式构法，是日本木制结构建筑的特征。

一方この農家は、18世紀初めに富山県で建てられた「合掌造り」である。

この小屋組は雪深い山村で生まれた形式で、先ほどの農家に比べ、はるかに太い柱と梁を使用している。

另外，这种是18世纪初在富山县建造的被称为“合掌造型”的农家。

这种结构产生于积雪很深的山村，与刚才的农家相比，使用了非常粗大的柱子和梁。

このように日本各地で自然の風土に適応した特徴ある住まいが生まれた。

しかし、地域差があるにしても、全国に普及した基本的な構法は同じである。

象这样，在日本各地产生了适合当地自然环境和气候的别具特色的住宅。

然而，尽管存在地域差别，普及全国的基本的构法却相同。

伝統的な軸組式構法では、「継ぎ手」、「仕口」という木材を組み合わせる技術が発達した。

传统的轴组式构法中，“继手”、“仕口”等木材的相互衔接技术很发达。

例えばこれは「金輪（かなわ）継ぎ」と言って、木材を直線につなぐ継ぎ手の一種で、主に柱に用いられている。

例如，这种构件叫做“金轮继”，将木材连接成直线的衔接部件之一，主要用于柱子的连接。

仕口は木材を直角につなぎ合わせる技術である。

“仕口”是将木材呈直角连接的技术。

在来構法 (conventional method of construction) も、柱と梁を基本にした軸組構法だが、伝統的構法と根本的に異なる点は、金物を使用しているという点にある。基礎と上部構造の間、また、継ぎ手・仕口の部分が、金物で補強されている。

一般住宅の構法，虽然也是以梁和柱子为基础的轴组构法，但是，它与传统的构法的根本区别在于利用了金属部件。基础与上部的构造物之间，以及水平、垂直的衔接部分，都采用金属部件来加固。それでは在来構法が受け継いだ、伝統的構法の最も大きな特徴とは何だろうか。

那么一般住宅所继承下来的传统构法的最大特征是什么呢？

これは、19世紀中頃に建てられた長野県の町家である。

这是19世纪中期建造于长野县的町家（一种家庭商业复合式住宅）。

お客様をもてなす座敷には書院造り (palace style) の特徴が見られる。部屋は長押 (なげし)

をめぐらし、欄間がついて、障子、板戸などの引き違い戸で間仕切られている。

この住まいづくりの高度な技術を身につけた職人には、屋根、畳、建具、障子ごとの専門家がいて、相互に連絡を取り、相手の仕組みが理解できるようになっていた。

それは、柱と柱の間の寸法基準が、規格化されていたためである。

房间四周保留有被称做“长押”的结构形式，并拥有栏间，通过屏风及推拉门将房间隔开。

这些拥有高度住宅建造技术的专业人员，有屋顶、地板、门窗、屏风等各方面的专家，通过相互间的配合，彼此能够理解对方的作法。

这是因为柱子之间的尺寸被规格化的缘故。

1間・約900mm（図挿入）

日本の平面計画は、およそ90センチのモジュールを持つグリッド状に構成されている。2モジュールを「一間」といい、壁も開口部も原則としてこのモジュールで形成されている。

日本的一間・900mm（见图）

“1間”・約900mm

日本建筑的平面设计，由大约由90厘米见方的单位体呈格子状构成。

2个单位体称为“1间”。墙壁和门窗

原则上也是由这样尺寸的单位体构成的。

日本的一間・900mm

そのため、畳、ふすま、障子なども規格化でき、よく区分されたきわめて柔軟な\*オープンシステムをつくりあげていった。

このように伝統的構法に見られる建築のシステムは、今日の住宅に大きな影響を与えている。

(\*注：市場に流通している不特定の建材を用いて建築物を構成するシステム)

因此，榻榻米、格子窗、屏风等也可以规格化，形成拥有良好的柔软性的“开放系统”。

这种从传统构法中看到的建筑系统，对于现代的住宅具有很大的影响。

(注：“开放系统”是指可以使用市场流通中不特定的建筑材料来建造建筑物的系统)

関東大震災

关东大地震

1923年、東京をおそった関東大震災は、日本の建築構法に新たな流れを加えた。東京工業大学の田辺平學（たなべ・へいがく）教授は、戦災の反省から都市の不燃化を主張し、1948年、木造建築の各部材をコンクリートの不燃材に置き換えるという発想を実現させた。

1923年，袭击东京的关东大地震，为日本的建筑构法提出了新的课题。

东京工业大学的田边平学教授，反省了震灾的教训，提出了城市不燃化的主张。

1948年，木造建筑的各部分的材料被混凝土的不可燃材料所取代的设想得到了实现。

工大式組立鉄筋コンクリート住宅

工大式组合型钢筋混凝土住宅

これが、工大式組立鉄筋コンクリート住宅、いわゆるプレコン (precast reinforced concrete construction) である。

这是工大式组合型钢筋混凝土住宅，也就是所谓的预制应力钢筋混凝土板结构。

トヨライトハウス

板式结构住宅

つづいて1958年、プレコンを改良して、「トヨライトハウス」が誕生した。これは、柱と梁と筋交いとを一体化したパネル構造である。

1958年、预制应力钢筋混凝土板结构经过改良，“板式结构住宅”诞生了。

这种住宅的特征是柱子和大梁以及交叉材一体型的板式结构。

量産公営住宅

量産公営住宅

さらに、トヨライトハウスのシステムの量産性とコストに注目し、中型のコンクリートパネルによる、「量産公営住宅」がつけられた。

之后，着眼于板式结构住宅系统的批量生产性和造价，出现了中型的混凝土板式结构“量産公営住宅”。

このような独自の展開を見せた中型パネルの他にも、注目すべき動きがあった。

それは戸建てのプレハブ住宅が誕生したことである。

象这样独自发展的中型板式结构之外，还有应该引起注意的趋势。

就是独立式预制住宅的诞生。

ミゼットハウス

成品小屋

1959年、「ミゼットハウス」という、6畳のプレハブ勉強部屋が販売された。これは、住宅の既製品と言われて人気を集め、やがて平屋建の住宅へと発展した。

1959年，一种被称谓“成品小屋”的6个榻榻米大小的预制书房开始在市场上销售。

由于这种被称为成品住宅的非常受欢迎，最终发展成为现在的单层住宅。

プレハブ住宅の主流は軽量鉄骨造で、幅の小さいパネルによって躯体部分を構成する中小型パネル構法が主体であった。

预制住宅的主流是轻质钢架结构，其大多采用由宽度很小的板构成躯体部分的中小型板式结构方法。

屋根工事

屋根工事

外壁パネル取付

外牆板安裝

プレハブ新設住宅着工戸数・千戸・年（グラフ挿入）

飛躍的に成長してきたプレハブ住宅 - その要因の一つに間取りがある。

新建的预制住宅的开工户数・千戸・年

预制住宅得以迅速成长的原因之一在于其房间分割。

それは部品をあえて大型にしないで自由度を高め、伝統的住宅の持っていた間仕切りの自由度をプレハブ住宅に導入したことである。

预制住宅通过其部件的小型化，提高了自由度，引进了传统住宅的房间自由分割的特征。

また、1970年頃商品化されたユニット構法は、パネル構法と並び、大きく普及した。

此外，1970年左右商品化的单体成品构法，和板式构法同样得到了广泛的普及。

ユニット構法は、工場で可能な限りの加工、仕上げを施したボックスユニットをつくり、現場でこれらをジョイントするだけの構法である。

单体成品构法是在工厂尽可能地制作加工装饰好的单体成品，在现场只需要将一个一个的单体成品

组装到一起的构法。

2×4新設住宅着工戸数・千戸・年（グラフ挿入）

新建的2'×4'型住宅的开工戸数・千戸・年

2×4住宅が1974年にオープン化されて（売り出されて）以来、急速に普及してきた。

2'×4'型住宅自1974年开始销售以来，飞速地普及起来。

基本となるのは枠組壁構法で、床、壁、屋根といった各箇所は、枠組み材と面材が一体化されたパネルを形成している。

其最基本的结构是框架式构法，在地板、墙壁、屋顶等各部分，形成了框架部分和面材部分的一体化。

1980年、建設省の住機能高度化推進プロジェクトの一環として、センチュリーハウジングシステム（CHS）の研究が始まった。

1980年，作为建设省推进的住机能高度化项目的一环，开始了世纪住宅系统（CHS）的研究。

CHS住宅

CHS住宅

これは、100年住宅 - つまり耐用性の高い住宅の供給を目的とした、設計、生産、供給さらに維持管理までもふくめたトータルシステムを構築しようとするものである。

是以“百年住宅” - 高耐用性住宅の供給を目的，试图构筑一种从设计、生产、供给到维修管理的一体化系统。

また、配管スペースや点検口を確保し、合理的に維持管理ができるようになっている。このように、CHS住宅には伝統的構法に見られる職人による建築分業システムの思想、つまり、部品の組み合わせ技術が受け継がれている。

另外，通过设置配管空间及检点口，可以进行合理地维修管理。

象这样，在CHS住宅中，也可以看到传统构法中的专业人员的建筑分工系统的思想，也就是继承了传统构法中的各部分的相互连接组合的技术。

これからの住宅は、ひとつには高齢化に備えていかなければならない。そして、職業が多様化していく中で、在宅勤務に備え、家庭内に様々な機器が入ってくることを考慮しなければいけない。一方、つくる側では、これから高齢化により若い労働者が少なくなる。それに応じて、現場の労働力が少なく済むプレハブ化もさらに進めなくてはならない。

そしてCADなどの導入といった、トータルに手間がかからない構法を進められていくべきだと私は考える。

今后的住宅设计方向之一，是不得不为老龄化社会做准备。

另外，随着职业的多样化，在家工作的出现，不得不考虑在家庭中配备各种各样的机器及设备。

另一方面，对住宅建造的一方来说，随着老龄化的加深，年轻劳动力将越来越少。

与此对应，在现场少量的劳动力就可以完成的成品化建造也应随之更进一步地发展。

随着CAD等的导入，我认为在整体上应该注重发展省工省时的构法。

住宅は、需要と供給、つまり求める側とつくる側の共存共栄が続く、複合化の時代に入ったと言える。

现在的住宅，在需求和供应，即需求方和建造方共存共荣的持续中，可以说已经进入了复合化的时代。